

第1回高岡市教育将来構想検討会議議事録

- ・日 時 平成30年4月25日(水) 10:00～
- ・場 所 高岡市生涯学習センター5階 502 研修室

事務局：冒頭あいさつ

事務局：委員、事務局紹介

事務局：会長、副会長は委員の互選によるとしている。

委 員：学識経験者の宮田先生はいかがか。

一 同：異議なし。

会 長：就任のあいさつ

事務局：副会長の選出については委員の互選となっている。会長の宮田会長から推薦していただ
いてはどうか。

一 同：異議なし。

会 長：副会長を2名とさせていただきたい。多田委員、岡本委員にお願いしたいがいかがか。

一 同：異議なし。

事務局：宮田会長へ諮問書を渡す。

事務局：諮問書の読み上げ

事務局：学校教育関係について説明

委 員：小学校毎の人口将来予測はあるか。

事務局：5年後まではあるが、それ以降は発表されていない。高岡市全体としてはある。

委 員：五位地区での統合は、既存の小学校で統合するのか、新しい学校を建てるのか。

事務局：新しい学校を建てる方向で準備を進めている。地元の理解も得られ、内部でもその方向
で進めているところである。

委 員：私の住む地域では、統合について何度も話が上がったが、地域から小学校がなくなるこ
とに対する反発が大きく話が止まっている。しかし新しい学校が出来るとなると、話が
変わってくる。学校新設は高岡市の財政を圧迫するのではないか。

事務局：この会でいろいろと意見をいただき、新しい方向を示していくことも可能と思う。

事務局：社会教育生涯学習関係について説明

委 員：二上まなび交流館は、もともと県の施設であり、県が廃止することを決めたときに、陳
情し、市へ譲渡されたと認識している。施設が老朽化していることはわかる。将来的にこ
の施設が廃止されるような気がしてならない。この施設は青少年の野外活動にとって有
効で大切な施設であり、これに代わる施設はないと考えている。何とか維持していただ
きたい。野外活動プログラムが多いため、人も必要なので費用的に高つく施設になって
いると思う。奈良県にも似た施設がある。そこは自由な使い方ができ、施設をフリーに開

放したりしている。二上についても存続していくための工夫が話し合われたら良いと感じている。

委員：全体の質問として、再編計画は正式決定されて議会も了解していることなのか。

事務局：公共施設の再編計画については3月末に報告があり、市長が計画して定めた高岡市の計画である。議会とは十分協議している。なお、実施については関係団体、地元と十分理解を得ながら進めていくことを確認している。この会議でも十分議論を深めて、実施に入っていきたいと考えている。

委員：議会は承認しなくても良いということか。

事務局：議決事項ではない。ただし重要な計画であり議会で十分に説明している。

委員：方針決定とあるがどういう手順で決定するのか。

事務局：方針決定については、この会で委員の皆さんから意見をお聞きし、それを踏まえて教育委員会として方向を示していきたいと考えている。

委員：最終的には条例によって廃止、存続ということになると思う。

委員：公民館について、地域にとってはなくてはならない施設である。学校の再編が進み、公民館までなくなると、地域としてやりにくくなるのではないか。公民館がなくなると全体が集まる場所が学校しかなくなってしまう。公民館の廃止の考えは住民とのギャップがあると考える。

委員：二上について、例えば、PPP、PFI を使って民間に任せる等の条例は作られているのか。

事務局：高岡市はPPP、PFI に関する条例は持っていない。

事務局：例えば体育施設や二上まなび交流館などでは指定管理という形で民間活力を導入したことをやっているが、本来の趣旨まで運営が到達していないところがあり、課題だと認識している。

委員：二上まなび交流館について、収支はどうなっているか。

事務局：今後正確な資料を出す予定であり、その際に、検討いただきたいと考えている。

事務局：小委員会の設置について説明

学校教育小委員会のメンバー

多田委員、在田委員、荒井委員、西村委員、中村委員、松谷委員、堀委員

社会教育、生涯学習小委員会のメンバー

岡本委員、杉江委員、服部委員、藤森委員、小泉委員、森田委員、佐伯委員

委員：五位統合小学校の基本的な方針とはどういったことを指しているのか。

事務局：高岡市全体のモデル校としての評価がされ、また認めていただけるような方向性を小委員会で協議し、全体会で承認を経て報告をいただきたい。五位については統合の方向性は決まっているので、できるだけ早く着手したいと考えている。そういった流れを聞かせていただきたいと考えている。

会長：それぞれの小委員会にオブザーバーとして参加できる形をとってはどうか。

事務局：かまわない。

事務局：今後のスケジュールについて

委員：本会議は高岡市の今後 10 年の教育将来構想を打ち立てるということでよろしいか。

事務局：はい。

委員：では、いくつかの諮問事項があったが、これ以外も含めた教育構想が成果物として出来上がるのか。教育構想の成果物のイメージはどういったものなのか。

事務局：例えば五位中学校区の整備の基本的な方向であれば、モデル校としてどのように整備するのが望ましいかという方向性を示していただきたいと思っている。望ましい学校の規模と配置については、例えば今後 10 年の全体像を示していただきたい。教育の内容にかかわる部分については、事務局から説明し、それについて意見をいただき取りまとめをさせていただきたいと考えている。学校環境の改善については、エアコンの設置等も含めて議論いただき、意見を集約していただきたい。社会教育については、公共施設再編計画の中で、方向性を検討いただきたいと考えている。民間活力という方向性は大事であると考えている。市民協働のなかでどんな仕組みがあるのか指摘いただき、これらを盛り込んだ方向性を示したいと考えている。

委員：諮問事項を小委員会の中で分かれて議論するものなのか、それ以外の教育の部分も議論すべきなのか。

事務局：教育の方向性というのは一番大切だと考えているので、それについても共有し示していただければ良いと思う。

会長：高岡には教育大綱はあるが、振興計画がない。一番大事な部分としてどういう旗を掲げて教育を進めていくのか。この事が最初にあってはじめて、再編や、その他の検討ということがあると思う。教育委員会はその準備も頑張っていたいただきたい。

以上